

一歩一歩と

自民党 衆議院議員 活動報告書

木原誠二

せいじ便り 61号 夏季特別号

ホップ・ステップ・ジャンプ!!

昨年末の衆議院総選挙、6月の都議会議員選挙、そして先般の参議院選挙を経て、お陰様で、安倍政権が衆参両院のフルエンジンで稼働できる状況となりました。しっかりと頑張っていきます!!



また、自民党では、金融制度調査会、IT戦略特命委員会、復興加速化本部小委員会、観光立国調査会それぞれの事務局長として、また経済再生本部調査、中小企業・小規模事業者調査会幹事として、**政策のとりまとめ**にあたってきました。安倍政権の重要政策の多くに責任ある立場で関与することができ、仕事をたくさんできたと感じられる7か月となりました。こうして仕事ができるのも、地元の支えがあつてのことであり、感謝、感謝の日々です。

3年3カ月の浪人生活を経て久しぶりの国会を無事に終えることができました。国会では、予算・税制・金融政策を扱う伝統ある「財務金融委員会」、内閣の重要政策全般を担当する「内閣委員会」の二つの委員会の与党理事として、**与野党折衝の最前線**に立つてきました。



久しぶりの国会を終えて

たくさん仕事をさせていただきました。成長戦略、実行あるのみ!!!

感謝

メディア露出も増加中!!

色々と重要な政策立案に関与させていただいているお陰様で、メディアへの露出も少しずつ増えてきております。

参議院選挙前には、BS11のInsideOutで5夜連続の各党参議院選挙公約徹底討論バトルに自民党若手議員を代表して出演したほか、ニコニコ動画でも自民党を代表して参議院選挙公約の解説をさせていただきました。その他、青年局の活動紹介でBSプライムニュースへの出演など、多くのお声掛けをいただいております。しかし、私の情報発信の主流は、引き続きこの



毎月1回発行のせいじ便りとネットを通じた発信です。引き続きお付き合いください。

料を負担するというだけでなく、利用実績が高いコンビニには奨励的な加算手数料を支払うなどの工夫もできるようになるのではないかと。あるいは、コンビニやクレジットカードの活用による納付率の向上についてより定量的目標値を設定するなどにも必要ではないか。こうした点を厚労省に投げかけ、現在検討しているところです。



行政の意識改革に向けて

現在の日本の予算制度の最大の問題点は、事後チェックがないことです。財務省は事前査定には相当時間をかけてやっています。しかし、実際にその事前査定通りの成果を挙げられたか、実はもつといいやり方、予算の使い方があったのではないかを事後検証する仕組みはありません。本当は、事後チェックも行政の中でしっかりとやるべきなのですが、今はまだその意識が行政側にありませんので、暫くの間、我々のPTでそうした議論を行政にぶつけ、**行政の意識改革**を促していきたいと思えます。

国会見学ツアーにいらっしゃいませんか?

所要時間1時間~2時間程度

天皇陛下の御休所、熱い論戦の場「本会議場」などをご案内します。ご希望の方は、国会議事堂や議員会館でのお食事も可能です。**参加費は無料**(ご昼食代と交通費のみ)、**2,3人のグループから結構ですので、是非、ご家族やご友人とご参加ください。**希望日、希望時間、代表者のお名前、参加人数、昼食希望の有無をご連絡下さい。



お問合せ先
木原誠二事務所 TEL 03-3508-7169
FAX 03-3508-3719
担当 高橋

ホームページ <http://www.kiharaseiji.com>

オフィシャルブログ <http://ameblo.jp/kiharaseiji/>

twitter ID http://twitter.com/kihara_seiji

発行：木原誠二後援会 東京都東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2階



木原誠二プロフィール

年金・医療・介護、障害者福祉、行財政改革、公務員制度改革、都市農業など幅広く活動を展開。
1970年6月東京生まれ。私立武蔵高校、東京大学法学部、ロンドン大学LSE修士卒業。平成5年大蔵省入省。平成17年9月衆議院初当選。著書に「英国大蔵省から見た日本」(文春新書)

地元事務所

〒189-0013 東村山市栄町2-22-13 松岡ビル2F
TEL 042-392-4105 FAX 042-392-4106

国会事務所

〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館915号室
TEL 03-3508-7169 FAX 03-3508-3719



木原誠二公式モバイルサイト

<http://kiharaseiji.com/k/>
携帯電話から木原誠二モバイルにつながります。

中小企業・小規模事業者 政策フォーラムを実現

とりわけ、中小企業・小規模事業者調査会の幹事として、6月30日には、自民党本部において、大掛かりな「政策フォーラム」を開催し、全国から多くの中小・小規模事業者の皆様のご参加をいただき、安倍総理、甘利経済大臣、伊藤調査会長などと直接対話をしていただきました。

浪人期間中、中小企業でサラリーマンとして働いて感じたのが中小企業政策の重要性でしたが、今もその想いは変わりません。日本の雇用の7割を支える中小企業の元気、そして地域経済の活性化なくして日本の再生はありません。今後「地方産業競争力会議」の設置、中小企業金融の充実などに取り組んでいきます。



成長戦略に王道無し、実行あるのみ

さて、日本経済は、3本の矢によって株価の回復、円高の是正が進んだほか、物価の下げ止まり傾向も見られます。より重要な点は、有効求人倍率がリーマンショック前の水準まで回復したように、雇用状況にもやや明るさが見えてきていることです。

しかし、本番はこれからです。金融政策、財政政策と官主導でここまで来た日本経済を民主導の回復に戻していくこと、成長戦略の出番です。しかし、魔法の杖はありません。王道を行くことです。金融政策、財政政策がどちらかというと需要面の政策だったとすると、供給面の政策である成長力強化は、基本的に以下の三つの経路しかありません。

やるべきことは明らかです。後は実行あるのみ。全力で取り組みます。

塩崎恭久・政調会長代理からのメッセージ

「自民党の「仕事人」を大きく育てて下さい!!」

皆様、こんにちは。

自民党政調会長代理、元内閣官房長官の塩崎恭久です。

木原誠二くんとは、彼がまだ30代前半のときか

経済成長の王道!!

- ① 人的資本の強化(働き手を増やし、質を高めること)
↓「子育てと仕事の両立」支援などを通じた女性の社会参加の促進、インターシブの充実などを通じた若者の就業機会の強化を通して、働ける人のうち実際に働いている人の割合を増やしていきます。眠っている労働力を振り起こしていけば、人口減少が続く我が国でもまだまだ人的資本を強化することは可能です。
- ② 物的資本の蓄積(投資を増やすこと)
↓本年度税制改正で、研究開発減税や雇用減税、交際費課税の緩和などが実現していますが、今後、更に投資減税や法人税の引下げを通じて、投資を刺激していきます。
- ③ 生産性を挙げること
↓ICTの利活用の徹底、エネルギー分野や環境分野、健康産業分野などでの規制改革の徹底。

ら既に10年近い付き合いになります。昔から、しがらみに囚われない大胆な政策通でしたが、3年3カ月の浪人生活を中小企業のサラリーマンとして経済現場の最前線を必死に生き抜いてきた経験で、

更に一回りも大きくなって戻ってきてくれました。

木原くんの不在で我々も大変苦労しましたが、復帰後の7か月は、「自民党の仕事人」として、自民党の重要な調査会などで事務局長というとりまとめの立場を務めるなど、期待以上の働きぶりです。主なものだけでも、次のようなものがあります。

●金融調査会事務局長

成長戦略の要となる新たな地域金融、ベンチャー金融の枠組みの提示

●IT特命委員会事務局長

ICTの利活用、とりわけ農業やインフラ整備などでのICTの利活用、そしてオープンデータ、ビッグデータの推進などの提言とりまとめ

●観光立国調査会事務局長

訪日外国人2000万人に向けての総合的提言とりまとめ

●東日本震災復興加速化本部小委員会事務局長

福島第一原発の除染・廃炉加速に向けた提言とりまとめ

無駄撲滅PTいよいよ再始動!!

自民党行革推進本部の無駄撲滅チームが再始動しました。私も行革推進本部の幹事の立場から、主査としてチームを引っ張っていくこととなりました。

(提言は<http://kiharseji.com>をご覧ください)

これだけの多くの重要政策分野でとりまとめの仕事を任されている若手議員は、我が党の中でも稀で、自民党の政策責任者として、私も大変助かっています。



そして、今後は、アベノミクス第三の矢が成功するよう、自民党経済再生本部の二員として、汗を流してもらわなければなりません。アベノミクスが本当に成功するかどうかは第三の矢である成長戦略にかかっていますが、そのためには多くの抵抗や障害に立ち向かっていかなければなりません。木原くんには、既得権の岩盤に果敢に切り込んでいく役割、もちろん頭を使っていますが(笑)を担ってもらいたいと思っています。

皆様にも、引き続き木原誠二くんを育てていただきますよう、お願いします。

そもそも、無駄撲滅PTは、政権交代前の自公政権下において、河野太郎議員の発案で、地方政府を中心に行われていた政策棚卸しの手法を国の予

算にも取り入れてはどうかということが始まったものでした。当時、私も河野チームの二員として参加させていただきました。その後、我々の手法は、民主党政権で事業仕分けという形で引き継がれていきましたが、今回、あらためて、河野PTが再始動することとなりました。

4月、5月と先ず取り組んだのが復興予算の徹底検証。その結果、毎年積み上げて予算を計上するのではなく、ザクッと「これくらい」といつて計上する基金方式の問題点などにも鋭く切り込み、いったん基金に振り込んだら取り戻すのは難しいとされていた予算を国庫に返還させることとなりました。

年金予算での具体例の紹介

現在は、年金・医療関連予算の検証に入っています。私が担当する年金予算から、議論の一例を紹介したいと思います。

年金保険料の納付率を上げる手法として、コンビニ振込やクレジットカードの利用促進というものがあります。その手数料について国が負担するという予算項目があり、現在、厚生労働省に予算計上されています。

しかし、既に保険料の徴収事務そのものは年金機構に移管され、徴収率向上の目標などが設定されているわけです。そうであれば、徴収率向上の手段の一つであるコンビニ振込やクレジットカード利用促進の予算も厚生労働省ではなく年金機構に計上すればいいのではないかと。そうすれば、単に手数料